デッサンの自己評価に影響を及ぼす要因

—共作者との対人関係を中心に—

阪田真己子・柴眞理子

【はじめに】

創作ダンスの学習において体験されるコミュニケーションの数々は，単に他者との意志疎通を意味するものではない。一つのデッサンを創作する過程においては，言語のみならず身体の動きを介して，共作者とのコミュニケーションを体験し，仲間と協力することの喜びを実感すると共に，多様な個性の存在に気付くことが先行研究により報告されている。このような認識の過程の根底には，共作者との相互作用があるであろう。

そこで本研究では，創作ダンスの学習における学習者の，デッサンに対する主観的認識に影響を及ぼす要因として，「共作者との対人関係」に着目し，それが実際の自己評価にいかに反映されるかを明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

神戸大学発達科学部舞踊系運動方法論Ⅰ（1996年10月17日～12月９日）の受講生25名（M－17，F－８）に実施した舞踊課題学習による一時間完結学習を対象とし，授業時に受講生に対して行ったデッサンに関する調査結果の分析を行う。

オリエンテーション	大小	走止	伸縮	踏む 跳び出す ヘナヘナ	ジグザグ走 ぶつかる 倒れる	火山	走る跳ぶ 回る 突き刺す	中間テスト	ビデオ鑑賞

【結果と考察】

1. 共作者を替えた場合，その創作過程とデッサンにどのような影響があるかを明らかにするために，第２時限目に，相手を替えて同じ課題で，２回のデッサンを行った。１回目は受講生に自由にペアを組ませ（デッサン１），２回目は男女または異学年のペアで行い（デッサン２），VTRに収録したものをみせ，両デッサンに関する調査を行った結果（「自分のデッサンをみて気付いた点」「どちらのデッサンの方がうまくいったか」「デッサンを創る過程や，デッサン自体に共作者が及ぼす影響」）から，次の３点が明らかになった。

①親しい友人と共作することで，デッサンを創る過程で積極的に意見をだすことができ，自分のアイデアがデッサンにスムーズに生かされる。

②異性や，個性の違った者と共作することで，自分とは違った個性に触れ，お互いの個性を生かしたデッサンを創作することが可能となる。

③舞踊経験者と共作することで，抵抗なくデッサンに取り組むことができる。

2. 各デッサンごとに下記の自己評価の項目間の相関係数を算出し，高い相関を得た項目間の関係から，受講生に楽しいと感じさせたり，満足のいくデッサンをもたらす要因は，動きに工夫がなされることや自分のアイデアが生かされること，そしてイメージ通りにデッサンできることであるが，その根底にあるものは，共作者との活発な意見のやり取りの中で自己が認められることであると推察される。

【自己評価の調査項目】

1. 共演者と意見をだしあえたか	5. 満足いくデッサンができたか
2. 動きに工夫がなされたか	6. 今日は楽しかった
3. 自分のアイデアが作品に生かされたか	7. 恥ずかしかった
4. イメージ通りにデッサンできたか	8. 難しかった

3. 共作者との対人関係がデッサンの自己評価にどのような影響を及ぼすかをみるために，性別，学年，ダンス経験の有無，性格という４つの要因をそれぞれ２群に分け，上記の各項目ごとに要因における群別の平均値について検定を行った。

その結果，受講生は，上級生より，同級生と共作する方が難しいと感じ，またダンス経験の異なる相手の方が，動きに工夫がなされ，イメージ通りにデッサンできる傾向にあり，ダンス経験が同じ相手の方が恥ずかしいと感じていることがわかった。この結果から，上級生との創作過程においては，相手にリードされることによってスムーズに創作が進み，それが創作ダンスに対する取り組みを容易にしているといえる。また，ダンス経験の未熟なものは，ダンス経験者から多様な表現方法を学び，逆にダンス経験者は，未経験者から新鮮な表現方法を得ることで，相互に刺激し合い，それがイメージ通りのデッサンをもたらしていると推察される。また，ダンス経験の乏しい者同士が共作，共演した場合，創作ダンスに対する不安と抵抗から人前で踊ることに恥ずかしさを感じる一方，ダンス経験の異なる者同士が共作，共演することで，恥ずかしさが軽減され，意欲的にデッサンに取り組むことができるといえよう。

【ま と め】

学習者は，性別，年齢，ダンス経験などの条件が異なる人と共にデッサンする中で，自分とは異なる個性の存在に気付くと同時に，例えば上級生或いはダンス経験者との共作は，創作ダンスに対する不安や抵抗を消失させ，意欲的にデッサンに取り組めるようになるなど，その条件の異なりにより，ダンス経験の認識にも異なりがみられた。

この結果は，ダンスの男女共習授業の意義を意味すると同時に，指導者には，学習者が意欲的に創作ダンスに取り組み，ダンスのコミュニケーティヴな機能を十分に活用するための環境設定の一つとして，ペアやグループ作りの在り方への指導が不可欠であろう。